

●年表

- 1882 (明15) フェノロサが講演で南画の表現主義を攻撃、日本画の線描を擁護。官営の第一回内国絵画共進会への洋画出品拒否。洋画受難時代の始まり (～明28)。
- 1887 (明20) 岡倉天心ら東京美術学校設立、日本画科のみ。
- 1889 (明22) 浅井忠ら明治美術会結成 (～明34、在野洋画)。
- 1894 (明27) <日清戦争> (～明28)。
- 1896 (明29) 東京美術学校に西洋画科新設、黒田清輝教授就任。黒田ら明治美術会を脱会、白馬会結成、新派と呼ばれる (～明44、官学系、折衷的アカデミズム)。
- 1898 (明31) 岡倉天心、東京美術学校長辞職、日本美術院 (院展) 創立 (～明36、在野日本画)。
- 1901 (明34) 明治美術会、太平洋画会へと改組 (在野洋画、本格的アカデミズム)。
- 1904 (明37) <日露戦争> (～明38)。
- 1907 (明40) 乱立する会派をまとめ、文部省美術展覧会 (文展) 発足、第一部日本画、第二部洋画。官展の始まり。
- 1912 (明45) 萬鉄五郎「裸体美人」【フォーヴィスム】。フウザン会結成 (在野洋画)。文展第一部二科制開始。
- 1913 (大02) フウザン会解散。岡倉天心歿。梅原龍三郎滞欧作品展。文展第二部二科制建議。岸田の首狩り。
- 1914 (大03) 文展から分離し二科会結成 (在野洋画、文展非出品規定)。反文展として日本美術院再興 (在野日本画 + 洋画部新設)。今村紫紅ら赤曜会結成 (在野日本画) 【新南画】。恩地孝四郎ら「月映」【抽象】。<第一次世界大戦> (～大07)。
- 1915 (大04) 岸田劉生ら草土社結成 (～大11、在野洋画)。
- 1916 (大05) 鏑木清方ら文展を離れ金鈴社結成 (在野日本画)。
- 1917 (大06) 萬鉄五郎「もたれて立つ人」【キュビズム】。
- 1919 (大08) 文展、帝国美術院 (帝展) へと改組。
- 1920 (大09) 普門暁ら未来派美術協会結成 (後に三科インデペンデントと命名、在野洋画) 【未来派】。
- 1922 (大11) 小杉未醒ら日本美術院洋画部同人脱退、春陽会結成 (在野洋画)。草土社同人、萬鉄五郎ら合流。
- 1923 (大12) 村山知義らマヴォ結成 (在野洋画) 【ダダ】。  
<関東大震災>。
- 1924 (大13) 牧野虎雄、斎藤與里ら槐樹社結成 (官系洋画)。
- 1926 (大15) 佐伯祐三ら一九三〇年協会結成 (後に独立美術、在野洋画) 【フォーヴィスム】。

●団体

明治美術会…浅井忠、小山正太郎、松岡寿、山本芳翠、五姓田義松、黒田清輝ら。

白馬会…黒田清輝、久米桂一郎、岩村透、山本芳翠、藤島武二、岡田三郎助、和田英作、小林万吾、青木繁ら。

太平洋画会…吉田博、石川寅治、中川八郎、鹿子木孟郎、中村不折、石井柏亭ら。

ヒュウザン会第一回展覧会 (銀座・読売新聞社 1912年10月15日-11月3日 168点)

…岡本帰一、瓜生養二郎、岸田劉生、山本正一郎、清宮彬、松村翼、川村信雄、萬鉄五郎、三並花弟、高村光太郎、小林徳三郎、真田久吉、大和田磐、斎藤與里、埴原桑喜代、宮崎省吾、浜田葆光、木村莊八、川上涼花、山下鉄之輔、小島善太郎、本間国雄、有本寧馨、田中恭吉、裕伊之助、塚越茅以治、川上邦世、鈴木金平、万代恒志、平井為成、バーナード・リーチ、毛利教武、藤井達吉。

フウザン会第二回展覧会 (銀座・読売新聞社 1913年3月11-30日 133点)

…瓜生養二郎、三並花弟、川村信雄、川上涼花、埴原桑喜代、岡本帰一、浜田葆光、斎藤與里、木村莊八、真田久吉、松村翼、萬鉄五郎、裕伊之助、岸田劉生、高村光太郎、小林徳三郎。

二科会創立同人…石井柏亭、田辺至、津田青楓、梅原龍三郎、柳敬助、山下新太郎、小杉未醒、有島生馬、斎藤豊作、坂本繁二郎、湯浅一郎。

赤曜会…今村紫紅、速水御舟、牛田鶏村、岡田壺中、黒田古郷、小山大月、富取風堂、小茂田青樹。

草土社創立同人…岸田劉生、木村莊八、清宮彬、椿貞雄、中川一政、横堀角次郎、高須光治、中島正貴、高橋三千夫、飛田角一郎、柳沢菊次郎。

春陽会…小杉未醒、岸田劉生、梅原龍三郎、河野通勢、岡本一平ら。